

民進党は2日、両院議員懇談会を党本部で開き、苦戦に終わった参院選を総括した。出席者からは岡田克也代表が主導した共産党などとの野党共闘に賛否両論があった。代表選の日程を9月2日告示、15日投票票とすることも正式に決まり、党内の各グループが結束を確認するなど動きも活発になってきた。

「野党の協力体制のもとで参院選を戦った。めざすところと比べれば不十分だが私としてはある程度の結果は残せた」。岡田氏は会議の冒頭でこう振り返り、共闘の意義

両院懇談会で参院選総括

民進、共闘路線に賛否

を訴えた。自身が掲げた与党の改選過半数の阻止などを許したことなどの責任を負う形で、9月の任期満了に伴って退任を決めている。

会合で配った総括の素案は野党共闘について

「一定の成果をあげたが、保守層の離反を懸念する見方もある」と指摘。次期衆院選に向けて「(共闘の)基本的枠組みは維持しつつ、さらに検討する必要がある」とした。

出席した新人の当選議員

持たせた。同日夜には共闘に慎重な前原誠司元外相や長島昭久元首相補佐官が束ねるグループもそれぞれ会合を開催。これに先立ち、前原氏は記者団に出馬の可能性について「全く二

視する意見もあった。

共闘のあり方は代表選の焦点の一つだ。細野豪志元環境相は2日、記者団に「共産党とはある程度一線を画すことも重要ではないか」と語った。

代表選については「私自身が出るということだけにこだわることなく、他の選択肢も真剣に考えた」と述べ、保守系での

候補一本化作業に含みを



民進党の会合であいさつする岡田代表(2日、民進党本部)